

北海道グローバル人材育成キャンプ

道東・ネイパル足寄会場
令和2年2月3日
(主管教育局 十勝教育局)

令和2年(2020年)1月7日(火)～9日(木)の3日間、ネイパル足寄を会場に北海道グローバル人材育成キャンプが開催されました。全道各地から参加した21名の高校生が、多文化が集まる環境(12名のALT及び留学生の参加)を生かしながら、3つのセクションで構成されたプログラムに取り組みました。その様子を報告します。



【3日間のプログラム】

Section I Teamwork

○ Self-Introduction

事前課題で作成した「マインドマップ」を使って、興味を持っていることや将来の夢などを参加者に伝えました。



【実物投影機を使用したプレゼンテーション】



【参加者全員のマインドマップ】

○ 異文化理解

ALTや留学生が自国の文化や生活習慣について説明し、高校生は気になったことを質問するという活動を行いました。北米・ヨーロッパ・東南アジアの7カ国から紹介があり、高校生は興味深く耳を傾けていました。



【ヨーロッパの生活・文化】



【南アジアの生活・文化】

○ Debate

「Urban life と city life どちらが良いか」など身近なテーマを論題とした簡易なディベートを行いました。高校生とALT・留学生でチームを作り、異なる価値観を持つ人たちとの協働に挑戦しました。最初は立論形成に苦戦していた様子も見られましたが、少しずつ自分の考えを述べるできるようになりました。

【Voice～Section I を終えて】

外国人スタッフの方が積極的に英語で話せる雰囲気をつくってくれたことに感謝!

英語で「話すこと」には慣れてきたので、次のステップとして、英語で「討論すること」に挑戦するぞ! (十勝管内高校2年生男子)

Section II Global Issue

○ 講義「SDG s 概論」(講師: JICA北海道 木村 聖氏)

「世界の現状」「今なぜSDG sが必要なのか」「17の目標(ゴール)とは」「JICAの取組」などが説明され、ディスカッションで必要となる知識が提供されました。

説明後、講師の方とのやり取りにおいて、「SDG s と法的拘束力」「JICAの取組: 具体例と成果」「ゴール達成の現実性」といったテーマが参加者から出され、講師とともに意見交換を行いました。

○ Discussion

現代世界の諸課題から、貧困や紛争、環境など関心のあるテーマごとにグループをつくり、「これらの問題に対して国際社会はどのように取り組むべきか」を考えました。

その後、高校生だけで作成したプランをALTや留学生に向けて発表したり意見交換をしたりすることで自分たちの考えを深化させていきました。



【高校生からのプラン発表】



【外国人との意見交換】



○ Section II - Reflection

「価値観の異なる外国の人との対話は、自分たちに何をもちたさだろう」というテーマで、Section IIの活動で感じたことをライティングしました。主な意見を以下に紹介します。

同じ価値観を持つ人たちだけでは、考えつかなかったことを知ることができた。

外国人の価値観が、どのような生活・文化からもちたされているかを理解することができた。

情報収集の幅が広がること、異なる価値観からの指摘により、新たな気づきを得ることができた。

異なる価値を持つ人との意見交換により、様々な視点から考えることができた。自分の視野の広がりを感じた。

世界の諸課題について、私たちは外国の人とともに、考え続けなければならないことに気付くことができた。



Section III Local Issue

○ 講義「地域と外国人材との共生」(講師：とかちフレンドシップ 山田 大介 氏)

十勝管内の技能実習生の生活支援を行う団体の代表を務める山田大介さんを講師に招き、少子高齢化の進行と労働者不足といった地域の現状や、技能実習生が地域で生活する上でどのようなことに困っているのか、それに対してどのような支援を行っているのかといった内容について説明がありました。説明後、講師の方とのやり取りにおいて、「他国における技能実習生の受入状況はどのようになっているのか」という質問が参加者から出され、講師はヨーロッパやアジアの状況について詳細に説明してくれました。



【講師の山田氏】

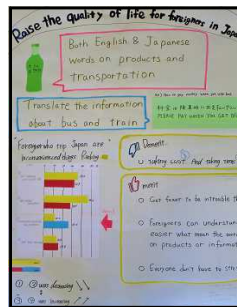
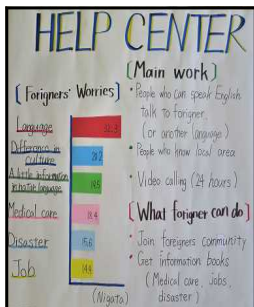
○ 「地域で生活する外国人のQOL (生活の質) を向上させるための取組」の提案

「地域で暮らす外国人の生活の質を高めるために必要なことは何だろう」というテーマでプランを考え、ALTや留学生に提案し、評価してもらうという活動を行いました。

プレゼンテーションでは、英語での質問に即座に対応するなど、ギャラリーのALTや留学生から高い評価を受けました。



【北海道に住む外国人にプランを提案】



【Voice~Presentationを聞いて】

初日はshyだったみんなが、今日はアイコンタクトするなど、堂々と自信を持って伝えようとしていた。fantastic! (上川管内ALT)

キャンプを終えて (参加者の感想や意見)

- 英語で自分の考えをどうにかして伝えようと必死でがんばり、そのことはとても勉強になった。英語を勉強するモチベーションがかなり上がった。
- 小学生の頃からEnglish Campに参加し、「もっと自分の考えを伝えられるようになりたい!」という思いが英語を学ぶモチベーションにつながっていた。これからも機会があればこのような英語漬けの空間で勉強したい。
- 価値観の異なる外国人のみなさんの考えを理解しながら楽しく討論できたことが嬉しかった。多様な文化を感じることができた。また、様々な視点でGlobal & Local Issue を考えることができた。
- 私はGlobalの問題に関心が向いていたが、Local(身近)な問題に目を向けることも大切だと思った。学校に戻り、友人と地域在住外国人向けのイベントを企画できないかと考えている。今回のキャンプに参加して心の底から良かったと思う。
- どんどん英語が聞き取れるようになり、自分の英語力の高まりを感じることができた。異文化を理解できたこと、有意義なディスカッションなど、タイトなスケジュールだったが、得るものは大きかった。



【参加者全員で記念写真】